

「おおさむこさむ」

第三日暮里小学校 六年 関根 梓紗

柳田先生、はじめまして。先生は冬の森で一日過ごしたことがありますか。私は「もりのようちえん」に行っていた時に一日中、森で過ごしていました。真冬の森は雪と氷の世界で、私が住んでいる東京とは違います。友達も私も「さむいさむい」と口ぐちに言っていました。

そんな場所に出会った絵本「おおさむこさむ」。もりのようちえんの先生が、冬の森で読んでくれました。この本はきつねのきつこといたちのちいとにいがおおさむこさむというゆきぼうずに出会うお話です。

おおさむこさむは「さむい」といった人を凍らせる不思議な力を持っています。おおさむこさむは「さむいといえさむいといえ」と脅します。そのセリフを聞いた友

達と私は、ゆきぼうずが怖くて「さむい」とは言えず、「さむくないよ」と声を合わせて、大きく叫びました。すると体に力が入って温かく感じられ、友達と気持ちが一つになり、心までポカポカしてきました。この体験を今あらためて思い出してみると、あの時「さむい」と言わなくて良かったと感じます。つらい時に「つらい」と口にしたら、心がよりつらく感じてしまうことがあるのではないのでしょうか。

柳田先生、心の内を言葉に出すことは、そのまま気持ちが固まってしまうことがあると思いませんか。

冬のマイナス十度の森で、「さむい」と言い続けていたら森での体験が楽しめなかったと思います。「さむくないよ」と叫びながら、私はそり遊び、雪遊び、氷遊びと冬の森を満喫しました。

マイナスな言葉はできるだけ口にせず、そんな時こそ

「○○じゃない」と叫びながら前向きに生活していく
といいのではないか、そんなことを教えてくれた「おお
さむこさむ」は私の大好きな絵本です。

【柳田邦男さんからのメッセージ】

おおさむこさむに「さむいといえ」と脅されても、友達と一緒に、「さむくないよ」と声を合わせて、大きく叫んだら、友達と気持ちが一つになって、心までポカポカしてきたところ、とても面白く感じました。

もし「さむい」とばかり言っていたら、せっかくの真冬の森の体験が辛いだけのものになり、何の楽しい思い出もなかったことになってしまいましたよね。

また、「心の内を言葉に出すことは、そのまま気持ちが固まってしまうことがある」という気づきは、鋭いですね。言葉というのは、不思議なものです。辛い時に、誰かに「辛い」と言うことで、

わかってもらった、辛さが少し楽になったという場合もあれば、反対に、「辛い」と言ったことで、ますます自分は辛いんだと気持ち固まってしまう場合もありますよね。

森の中で、関根さんが「さむくないよ」と言って、寒さを吹き飛ばしたのは、一人だけでなく友達と一緒にだったことも、大きな力になったのだと思います。辛い時、困った時の友人って、本当に大切です。

でも、「さむくないよ」とか「辛くないよ」と言えないほど寒さや辛さがすごい時には、あまり無理をしないで、「さむいよ」「辛いよう」と言ってもいいんだよ。

「森のようちえん」の体験と絵本の話を重ね合わせて、気づいたことを書いてくれたので、私もいろいろ学ばれました。ありがとう。